

平成 23 年 9 月 26 日
洗足学園音楽大学
洗足こども短期大学

今後の節電について

この度の東日本大震災、節電活動を通じて「新たな日常」の行動哲学を着実に実践しつつあります。

4 月当初、未曾有の震災によるマイナスの要素を極力減じると共に、厳しい経験を糧に成長するためのバネとして、①互助の精神、助け合い ②節電 ③本来の使命 ④被災者、被災地の支援を 4 つの判断基準・行動基準として、「再生へ 希望と絆 今わたしたちにできること」をスローガンと共に掲げて参りました。

この判断基準・行動基準の中で掲げた「節電」では、復興に向けて、日本社会・経済活動が滞りなく機能することが必要不可欠であり、そのためのエネルギー消費の抑制は、社会的要請であること、節電は目に見える具体的な取り組みとして最適であり、更に、時間短縮や共同というアプローチは分りやすく、有用であることを表明致しました。

「新しい文化」として環境と共存していく術を自主的に構築していくことが、日本に暮らす私達にとって、今後の最も重要な課題となります。

震災から半年が経過し、重要な問題となっていた夏の電力供給不足も、目標の 15%削減を大幅に上回る前年比 21.2%の削減に押さえることが出来ました。

9 月上旬をもちまして電力制限令は解除となりましたが、これを以って 3.11 以前の日常に戻るのではなく、この半年で築きあげた「新たな日常」の行動哲学を継承し、冬場の暖房に係わる電力供給不足も念頭に置いた上で、今後も節電に取り組みたいと考えております。

新たな価値観を基に、本学が人材養成及び教育研究上の目的としている「主体的」な学びの実践として、自主的に節電を行い、学生の健康に十分配慮した上で、限られた資源の有効活用に努めて参ります。